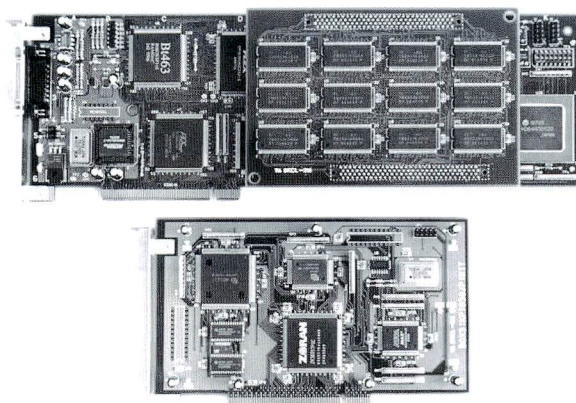


よ〜く考えてます

Question

システム設計ではどんな事を配慮すれば、良い設計と言えるか、KIT製の基板（右写真）を例に考えてみましょう。



Point 1

いかに、改造しやすいか？

写真上のハイビジョンボードの例では、上のボードが6層のインナーバイヤーで作られています。これは8層スルーホールでは、配線が通せない程のパターン量だということです。しかしそれでもあえて、全パターンを、一度は必ず基板表面に引き出す様にしています。こうするとどんな良いことがあるかはKITにTELして聞いてください。

Point 2

いかに、デバッグしやすいか？

同じく、下のボードがJPEG用コーデックですが、JPEGでは、元データと圧縮伸張したデータは同じではありません。したがって単にペリファイしても、不具合があって同じでないのか、正しい動作なのに同じでないのかわかりません。そこでいろいろな仕掛けをして、デバッグしやすくします。たとえばJTAG対応したPLDで中間データを読み出せるようにします。

Point 3

コストと、性能のトレードオフ

上の基板は性能重視した結果です。高価なPLDをふんだんに使って柔軟な回路を構築するか、量産コストを重視して極力余分な機能を削るか、ニーズにあわせて設計致します。

各社製品名は各社の商標または登録商標です。

Knowledge
Imaging
Technology

KIT

システム開発専門業社

株式会社

ケーアイテクノロジー

〒224-0032 神奈川県横浜市都筑区茅ヶ崎中央19-1 タウンスクエア3階 TEL: 045 (949) 5331 (代) FAX: 045 (949) 5332